

大学は論理的に思考することを訓練する場であるから、女子の場合大学を卒業してすぐに家庭に入っても、論理的にものを考えて日常生活を処理し子供を教育していけば、長い目でみるとそれは日本の社会にとって非常にプラスである。そこに女性としての地味ではあるが真の価値がみいだされるのではないか。これが女子学生一役に期待するところである。

最後に、浅井教授が本学においてになったことと、人文地理学講座が実験講座になったことが最近の喜ばしいでき事である。(この文は松井先生にインタビューしてまとめたものである)

(文責 馬場・遠藤)

新 任 メ モ

浅 井 辰 郎

お茶大転任の挨拶状を必要最少限出した所、返事を下さった方の大部分は「新時代の女子教育をよろしく」という意味のものであった。中に親しい友人だが「女子大学は呑気でいいだろう」というような、相手の顔を見返してやりたいのが僅かだがあった。この両極端に関して私の現在の気持ちをここに覚え書きにしておき、まかり間違っても、呑気などというイメージに惑わされて教育と研究を疎かにすることのないよう自戒の資としたい。

まず「呑気」の方から片付けよう。去年から今年にかけて40回位の講義中に何度もあった体験だが、1、2年の学生諸姉から鋭く要点を衝いた意見や質問が出た。その或るものはかつて陸軍士官学校出身者から受けたものに比肩する位、俊鋭なものであった。私はこれに大いに満足すると共に、従来にも増して講義の準備に精力を傾けている事実をお話しすれば、呑気の1件は雲散霧消すると信ずる。

さて「新時代の女子教育」とは何か。返事を下さった方の要求はいろいろあろうが逐次述べるようなものだろうと信じる。それにしても難しい問題ではある。広い方から云うと第1に、人生経験が増しても女性に関して解らない点も増して来るということである。価値判断なり、論理なりにおいて男性同志とは異った部分を発見することである。もちろんこれは同一教育水準においてである。よい例かどうか知らないが北欧に数年住んだ若い日本婦人の「北欧には流行がないからしっかりした各季節の衣服を何着か持っていれば衣服に気を遣うことは何もない」という話を取次ぐと、男性は概して「北欧の堅実さを表わしている」と肯定するが、女性は「そんなことはあり得ない。おかしい」と否定の方向に向う。このような価値判断の差を承認するとなると、第2に女子教育の場合森羅万象の中には男性の論理では論述が不充分あるいは不可能になる部分が存在するのではないかということである。第3にここは国立大学であるという問題である。ここでよく聞くことは「学生

も教官も国費で賄われているから、それに相応しい反対給付をすればよい」という論である。これ自身、糸の通った話ではあるがまだ不充分であると思う。「イートン、ケムブリッジはさておき日本の私立大学生は自費だから反対給付をしなくてもよい」、「国立大学生でも奨学金を完済すれば反対給付はしなくてよい」と主張すれば、聞いた者は反撥しよう。それはこれらが大学生、卒業生の社会的責任を忘れているからである。大学進学者は同年階層のおよそ5分の1にも充たないからでもある。私事に亘って申訳ないが、少年の頃には早く死にたいと思ったことがしばしばある。これを思い止まらせたものはその頃は、予想される親の悲嘆であったし、高校、大学時代はこの「社会的責任」であった。第4にここは国立最高の女子大学である。ある人は、「お茶大は陸士、海兵に通ずる所があったし、あるべきだ」という。「有能さを秘めた責任者集団」という意味では全く同感である。問題はいかにこの伝統に「新時代の」という形容詞を生かして行くかである。この形容詞には少くとも次の5つ位の意味が含まれると思う。a まだ発達段階初期にある民主主義下の、b 人口と職業のバランスから女子教員は数年にして教員の7割を占めるであろうという時代の、c 従って完全雇傭（都会集中を望まなければ）になる反面、人間の質の低下が心配される時代の、d 教員養成のみでなく、教養人をも作る新制大学としての、e 地理学にとって大事なことだが、世界が縮まり、国際理解が今ほど必要なことはない——という多様な「時代」の意味を含んでいる。紙がない。このそれぞれに抽象的な回答を書く代りにこころヶ月にお茶大で持った感想3つを述べよう。

①地理ではなかったが他で、自由参加の行事に対して統一行動のクラス決議をしたという。何と個人の尊厳を侮辱した行動であろう。自ら深く考え、自ら責任を以って行う勇氣こそ、この大学に在学し、社会的責任に答えて行くための最小条件ではなからうか。一步譲っても、高校までの受動的学問態度を逆にすべき大学で、まだ捨て切れずにいるのではなからうか。

②夜8、9時に帰ることがしばしばあったが、会うのはまず守衛さんばかり。電灯のついている部屋も少い。長くいるのが能でなく、学生は女性であり、東京在住者が多いことも知ってはいるが、学問に対して甘すぎないか。呑気と他所から云われるのがもしこの辺にありとすれば、上のa b c d eすべての面から再考を要しよう。

③よい話もある。先日大学院の諸姉と話したら切々と早く博士課程を作ってくれという。よく聞き訊したが浮いた希望ではなく思えた。大学行政上の難問かも知れないが、努力の仕甲斐のある希望である——今後わが学生をよく知ることによりこの駄文が杞憂であったと悟り、また幼稚な分析をしたものだとして自ら発展する日を願って已まない。妄言多謝。